3　北野天神縁起（六巻本）　六巻

紙本着色
三四・五～三四・七×七八九・五～一〇一二・九
室町時代　十六世紀

4　北野天神縁起（三巻本）　三巻

紙本着色
三三・五～三三・七×一六六六・八～二〇三九・六
室町時代　十六世紀

平安時代の学者として知られる菅原道真（菅公と呼ぶ。八四五～九〇三）を祀る京都・北野天満宮の縁起の絵巻である。縁起はまず、優れた才能によって異例の出世を遂げ、右大臣の位にまでのぼったが、左大臣・藤原時平の讒奏によって陥れられて太宰府に左遷され、その配流先で没するという道真の生涯を語る。そして死後、怨霊となって猛威を振るった説話の数々、北野社へ祀られるに至った由来、さらに天神の霊験利益の数々が語られる。『北野天神縁起絵巻』は承久元年（一二一九）頃の成立と考えられている北野天満宮所蔵の根本縁起以降、中世の天神信仰の広まりとともに多くの絵巻が制作された。それらの遺品は、冒頭の詞書の書き出しによって、一般に甲・乙・丙類の三種類に分類されている。

六巻本は、丙類「漢家本朝霊験不思議一にあらさる中に…」で始まる。丙類は正嘉二年（一二五八）に成立した新縁起（正嘉本という、原本は残っていない）を基にした弘安本（詞書末尾に弘安元年の記載がある）によって広く流布した。実際に弘安元年に制作されたと考えられているのは、北野天満宮などに残欠の形で伝わる。諸本の中でも、最も優れた画風を示すこの弘安本は、その写本においてその詞書や画面を実に忠実に写していることが特色であり、従って弘安本系の北野天神縁起の遺品は、残欠の形でしか残っていない弘安本の当初の姿を復原する貴重な史料となる。当館所蔵の六巻本はこの弘安本系の絵巻であり、同じ弘安本系の根津美術館本及び永青文庫本と図様や錯簡部分が類似しており、今後、これらの詳細な比較検討が必要であろう。当館所蔵の六巻本は、やわらかな描線や色彩で描かれる伝統的な画風を示し、土佐派系統の優れた絵師によるものかと考えられる。祖本の忠実な模写であろうと考えられるため、画師自身のきわだった特徴はあまり見られないが、襖などの画中画が他本とは異なる点には注目できる。なおこの絵巻の伝来は明らかでないが、近世以前にすでに皇室に伝わっていた可能性がある。

一方の三巻本は、「王城鎮守神々多くましませと…」の詞書で始まる甲類に属するもので、上・中・下巻の三巻から成る。絵、詞書ともに、他と比べて個性的な作品である。絵は三巻それぞれが別筆で、上巻が最も描き慣れた絵師によるもので、続いて下巻、そして中巻は素人さが目立つ。濃厚な色彩、奔放な画風など、室町時代後期の絵巻の特色を示し、特に上巻の吉祥院五十賀の場面や下巻の待賢門院女房の場面などには、その風俗に時代の特色が色濃く反映されている。詞書は、承久本などに見られる基本的な内容以外にも多く加えられて内容が膨らんでおり、室町時代に流布した『北野天神縁起絵巻』の特徴を示している（詞書は、全文の翻刻を資料2に掲載した）。表紙などの現状は当初のままの姿で伝わり、場面の図様には他本には見られない特徴が多く、応永二十二年（一四一五）の茨城・大生郷天満宮所蔵本などの地方作と類似するものもあるが、どの系統かは定めがたく、最もバラエティーに富んだ甲類の、新しい資料として興味深い作品である。なおこの絵巻は明治十七年（一八八〇）に町田久成からお買上げになったものである。

それぞれの絵巻の中で、以下の内容が展開する。

〈幼稚化現の事〉菅原是善の邸の南庭に小児（菅公）が現われ、是善はこの子を第三子として養育する。

〈幼時詩作の事〉菅公は十一歳で初めて詩を作り、十三、四歳では及ぶ者はいなかった。

〈大戒論序の事〉貞観八年十一月、天台座主安恵の請で、円仁（七九四―八六四、延暦寺第三世座主）の『顕揚大戒論』の序を書く。

〈良香邸弓遊の事〉貞観十二年春、都良香の邸で弓遊が行われた際、学問にすぐれた菅公の弓術を試そうと弓を引かせたところ、百発百中の勢いであったので、一同驚いて菅公を見直す。

〈吉祥院五十賀の事〉寛平六年九月、菅公五十歳の法会の際、一人の翁が現れ、願文に砂金を添えて堂前の机上に置いて立ち去るという勝事があった。

〈任大納言大将の事〉寛平九年六月、菅公は大納言大将となる。

〈任右大臣の事〉昌泰元年二月、菅公は右大臣に昇任される。

〈朱雀院行幸の事〉昌泰三年正月三日、延喜帝（醍醐天皇）は朱雀院へ行幸され、寛平法皇（宇多法皇）との密議の結果、菅公に政務委任の仰せが下った。

〈椋木法皇の事〉左大臣・藤原時平はこれを恨んで、無実の事を讒奏したた

め、昌泰四年正月、菅公の流罪の宣旨が下る。寛平法皇はわが子の延喜帝に、このことを留めさせようと内裏に向かうが、妨害に遭い、椋木の下で涙にくれて帰還する。

〈紅梅殿別離の事〉菅公一族は別れ別れとなり、住み慣れた紅梅殿で庭の梅と桜に別れを告げる。「東風吹かば　匂いおこせよ　梅の花……」の有名な詩で知られる。

〈配流途中の事〉太宰府に向かう西下の陸、海の旅路。

〈恩賜御衣の事〉昌泰三年九月、昨年の今夜に行われた清涼殿の宴のことを想い、恩賜御衣の詩作をする。

〈送後集長谷雄の事〉太宰府で作った詩を集めて「後集」と名付け、紀長谷雄（八四五―九一二、菅公と交友の深かった平安時代の学者）の元へ送る。長谷雄はそれを見て嘆く。

〈天拝山の事〉菅公は無罪の祭文を作って近くの天拝山に昇り、その旨を七日間天道に訴えて、天満大自在天神となられた。

〈安楽寺墓所の事〉延喜三年二月二十五日、菅公は太宰府で薨去された。遺骸を運ぶ牛車が動かなくなり、そこを墓所（今の安楽寺）と定めて埋葬した。

〈柘榴天神の事〉延暦寺座主・尊意の住房に菅公が現われ、報復を験力で防がれては困ると訴えたが、尊意は勅宣であるのでどうにもならないと答えたところ、菅公は怒って柘榴を妻戸に吐きかけて燃え上がらせた。

〈清涼殿霹靂の事〉清涼殿に雷電が霹靂し、時平は太刀を抜いて天神に語りかける。

〈尊意鴨川渡水の事〉時平が語りかけている間に、天神をなだめるための宣下を受けた尊意が洪水の鴨川を渡る際に、水は退いて陸地のようになった。

〈時平薨去の事〉延喜九年三月、時平は病に臥し浄蔵に祈禱させるが、時平の両耳から青竜の頭が現われ、菅公の言葉で祈禱をやめるよう浄蔵の父・三善清行に訴えたため、祈禱は中止され、時平は死ぬ。

〈公忠奏上の事〉延喜二十三年四月、右大弁・藤原公忠は頓死して冥宮で菅公に逢い、蘇生の後、このことを奏上する。

〈清涼殿落雷の事〉延長八年六月、清涼殿に落雷があり、大納言らが死傷した。これは天神の眷属の火雷火気毒王の仕業であった。

〈延喜帝落飾崩御の事〉病となった延喜帝は同年九月に譲位され、間もなく出家された後、崩御された。

〈日蔵上人巡歴・奏上の事〉日蔵上人は金峯山笙窟の修行中で息絶え、十三日後に蘇生する。その間、金剛蔵王の案内で大政威徳天になっている菅公に会ってその恨みを聞き、また鉄窟苦所では延喜帝に会って懺悔を聞く。上人は蘇生の後、急ぎ参内して朱雀天皇にこれらのことを奏上する。

〈綾子託宣の事〉天慶五年七月、西京七条に住む多治比の女の綾子に託宣が下り、右近馬場に一祠を設けて祀った。

〈太郎丸託宣の事〉天慶九年、近江国比良宮祢宜良種の子の太郎丸に託宣が下る。

〈右近馬場相議社殿建立の事〉祢宜良種は託宣を以て右近馬場に至り、朝日寺の最鎮らと相議する間、一夜にて松林を生じた。一同、力をあわせて社殿を建立する。

〈内裏造営・虫喰和歌の事〉円融院の時、わずか七年の間に内裏が三度も焼亡する。内裏造営の大工たちは、紫宸殿の裏板に虫喰によって書かれた不思議な和歌を見つける。

〈官位追贈の事〉正暦四年八月、勅使が太宰府に赴いて安楽寺へ参り、菅公に左大臣の官位を追贈する。翌年さらに太政大臣の追贈を行う。

〈待賢門院女房の事〉盗みの嫌疑をかけられた待賢門院の女房が、北野社へ参籠して祈る。やがて犯人の敷島という雑仕が盗衣をもって現われた。

〈世尊寺阿闍梨仁俊の事〉鳥羽院の女房に冤罪をきせられた仁俊は、北野社へ無実を訴えて祈ったところ、女房は半裸で狂い踊りだす。

〈仁和寺阿闍梨の事〉北野社の旅所の前を車で通過しようとした仁和寺阿闍梨に神罰が下り、牛は頓死、阿闍梨は裸足で逃げ去る。

〈仁和寺西念の事〉仁和寺の池上に住む僧の西念は、北野社に参籠して九十三日めの暁に、来年の彼岸七日に往生成就するという天神の示現を受け、翌年のその日に往生を遂げた。

〈銅細工娘の事〉西七条に住む銅細工師には二人の娘があったが、継母に辛い仕打ちを受ける。そこで娘二人は北野天神に助けを求めて参籠した。二人は天神の御加護によって、姉は播磨守有忠の室となって男の子をもうけ、妹は宮仕えをして、それぞれに幸運を得た。

『北野天神縁起絵巻』は、現存作品からみても、わが国の絵巻物の中で最も多くの作品が作られている。その中にあって、当館所蔵の二種類の作品は、その系統の違いから、同じ内容でありながら詞書の書き方や内容、場面の図様などが異る点でも、当時の絵巻のあり方を示す作品として興味深く鑑賞できよう。

第一　幼稚化現　『北野天神縁起(六巻本)』

第一　吉祥院五十賀　『北野天神縁起(六巻本)』

第二　紅梅殿別離　『北野天神縁起(六巻本)』

第二　配流途中(陸路)　『北野天神縁起(六巻本)』

第三　送後集長谷雄　『北野天神縁起(六巻本)』

第四　清涼殿落雷　『北野天神縁起(六巻本)』

第五　内裏造営　『北野天神縁起(六巻本)』

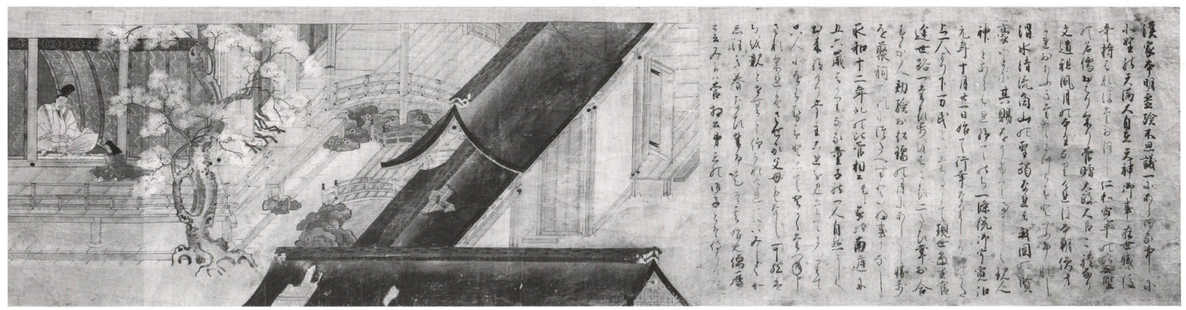
第六　銅細工娘受福　『北野天神縁起(六巻本)』

上巻　幼稚化現　『北野天神縁起(三巻本)』

上巻　吉祥院五十賀　『北野天神縁起(三巻本)』

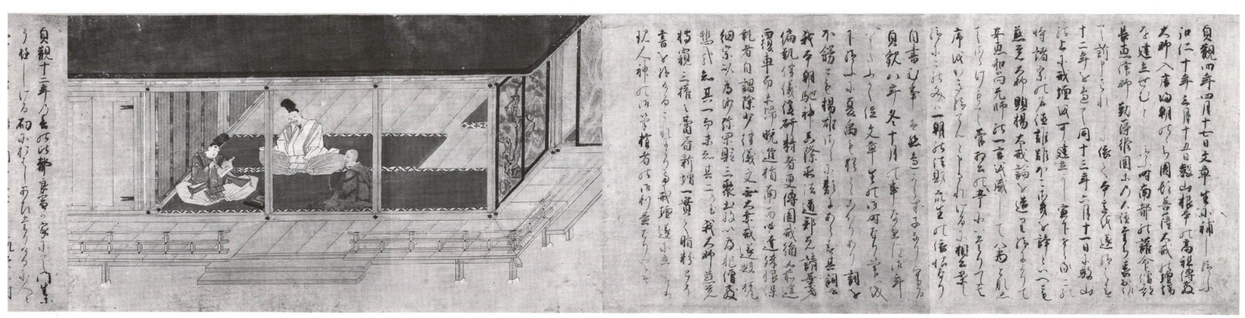
中巻　日蔵笙窟修行　『北野天神縁起(三巻本)』

下巻　銅細工娘受福　『北野天神縁起(三巻本)』



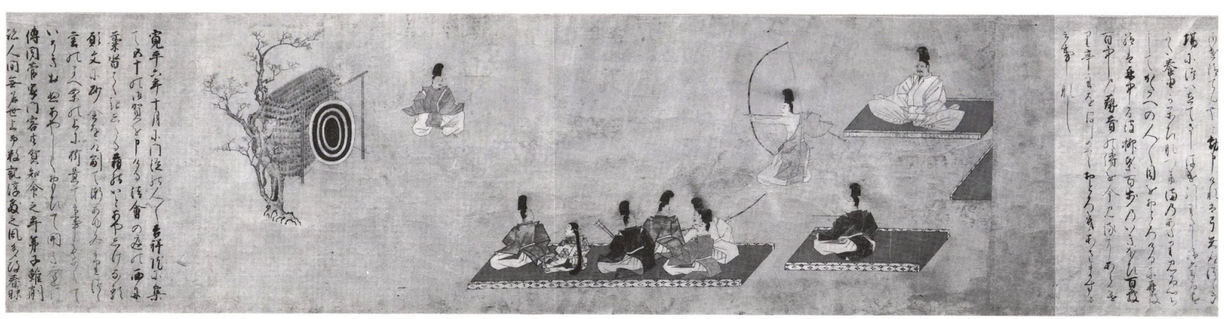
幼稚化現　　詞1

幼時詩作　　詞2

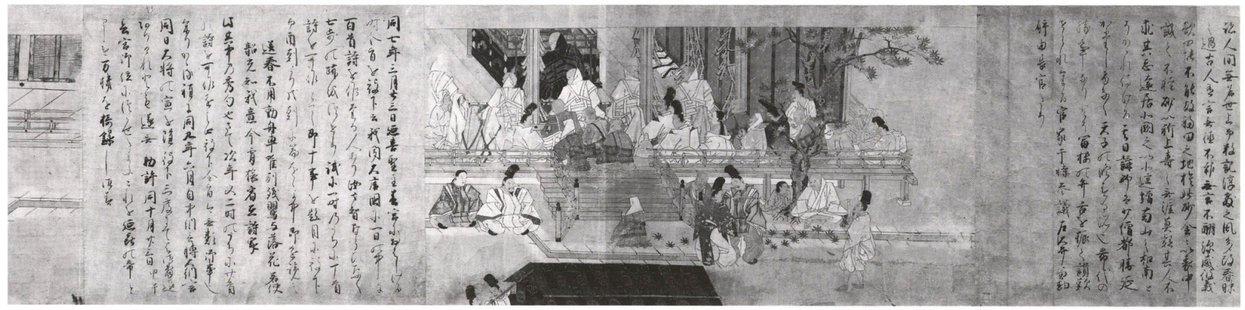


大戒論序　　詞3

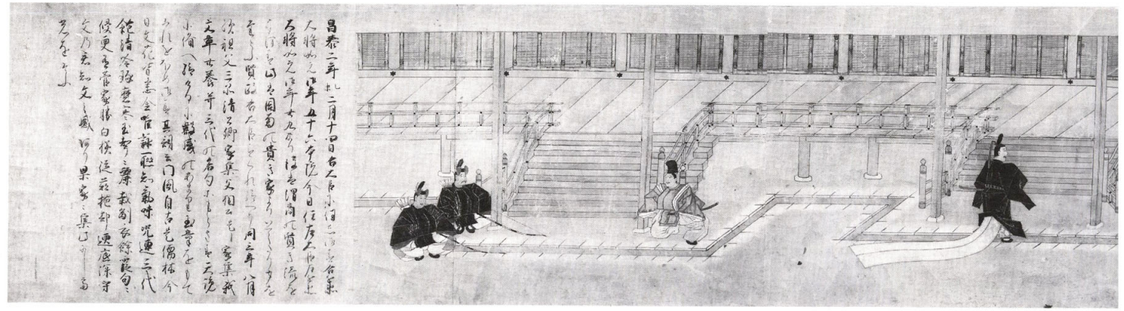
詞4



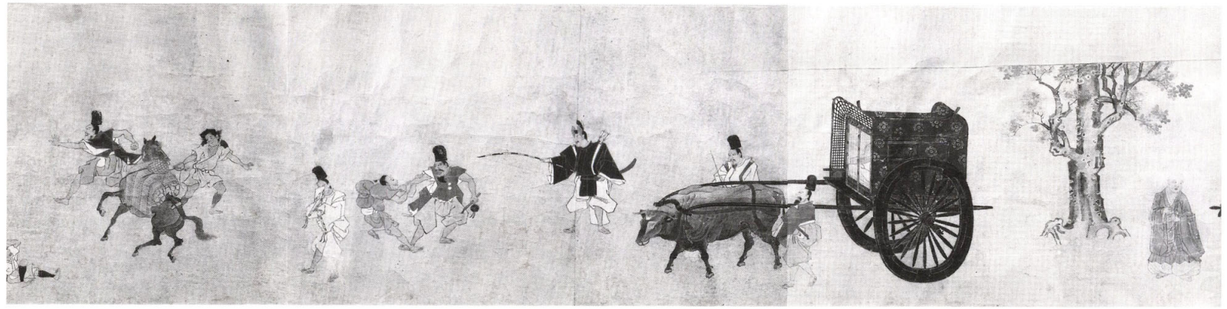
良香邸弓遊　　詞5



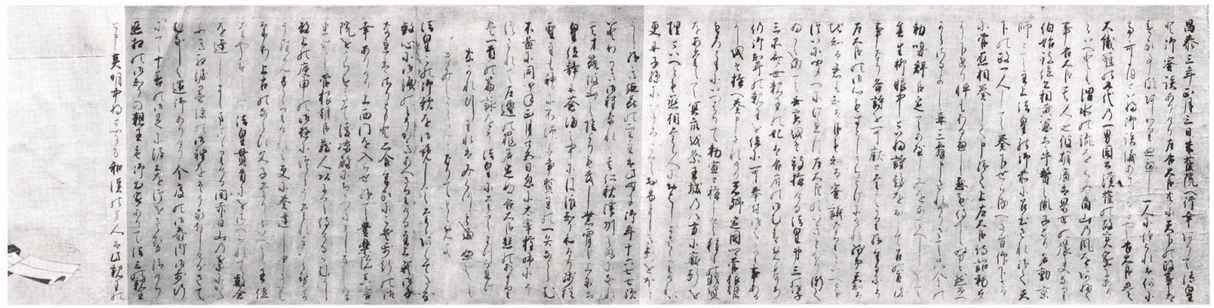
吉祥院五十賀　　詞6



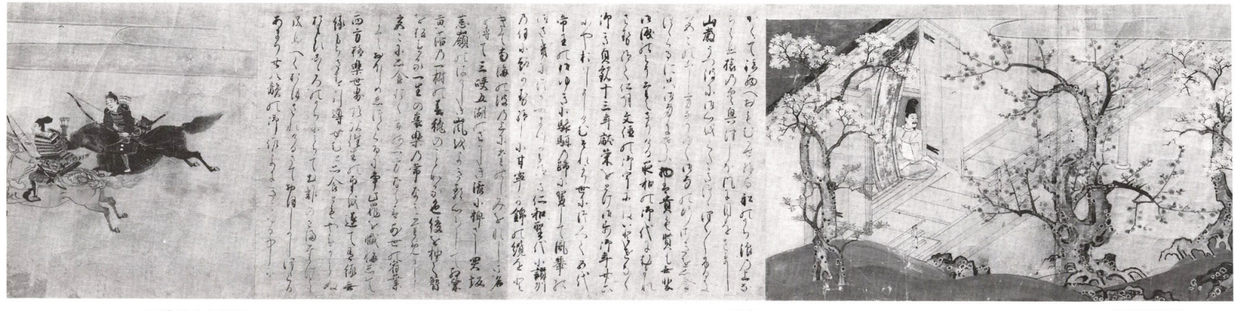
任大納言大将・任右大臣　　詞7



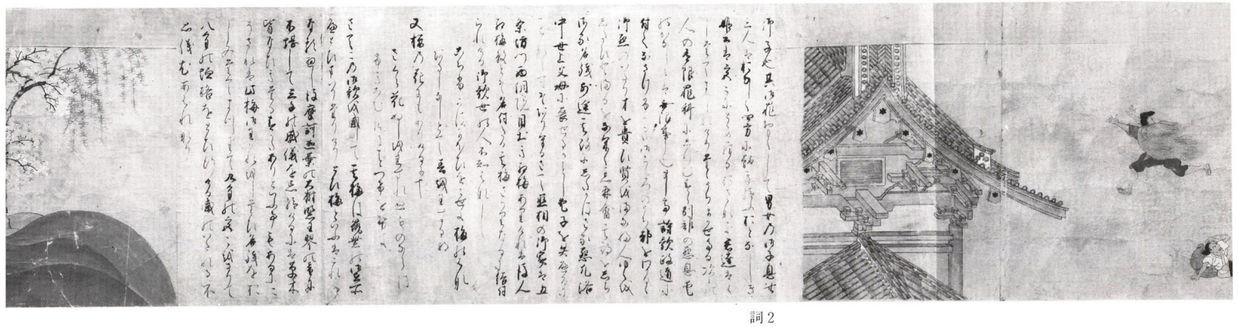
椋木法皇



詞1



配流途中(陸路)　詞3　紅梅殿別離

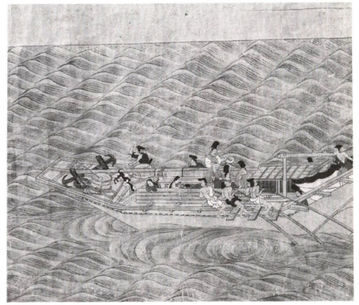


詞2

配流途中(海路)　詞4

詞3　送後集長谷雄　詞2

恩賜御衣　詞1

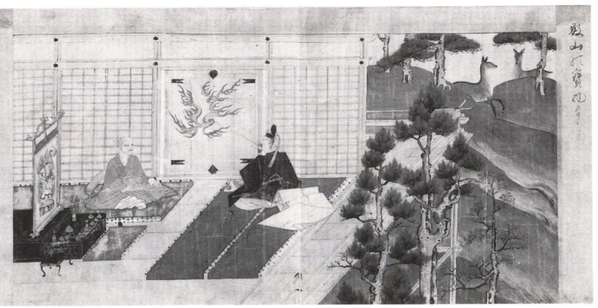


詞5　安楽寺墓所

詞4　天拝山

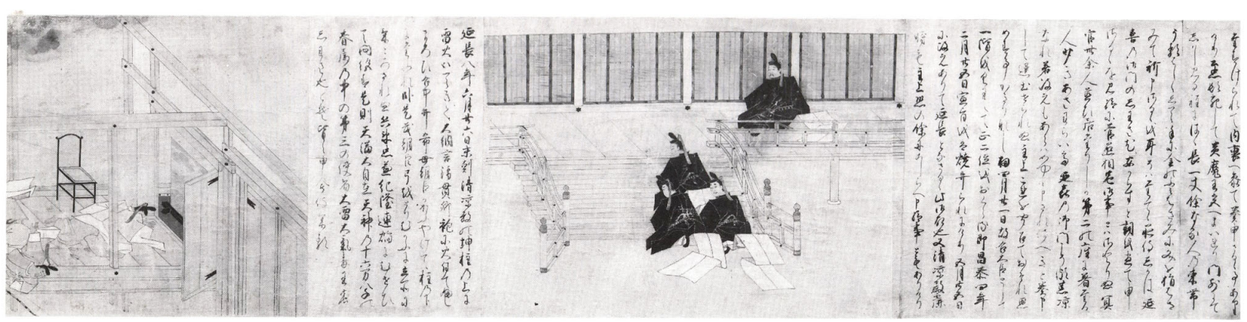
尊意鴨川渡水　詞7

清涼殿霹靂　詞6

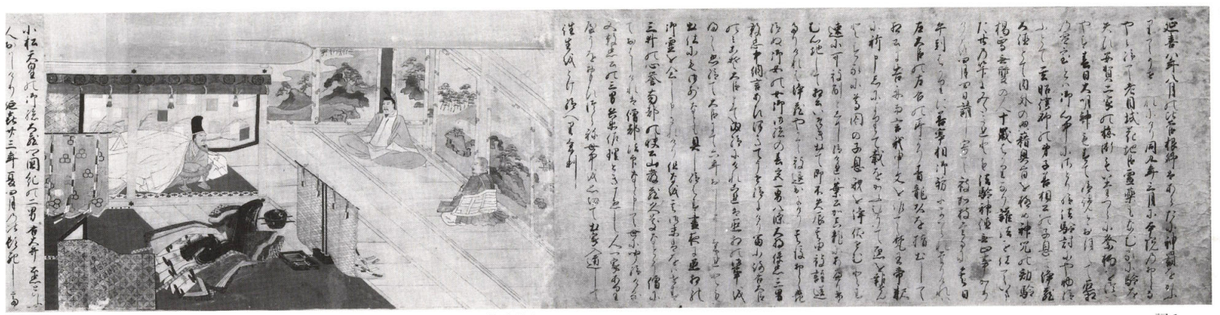


柘榴天神

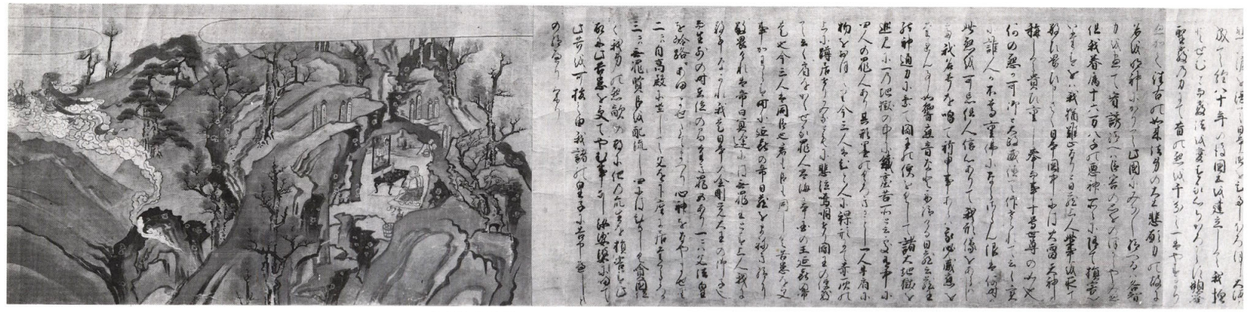
巻四



清涼殿落雷　詞3　公忠蘇生奏上



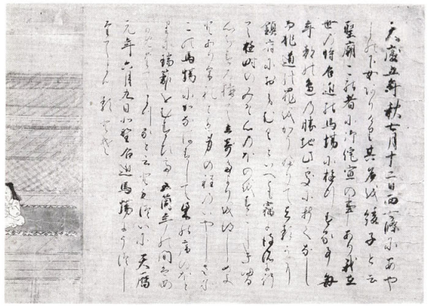
詞2　時平薨去　詞1



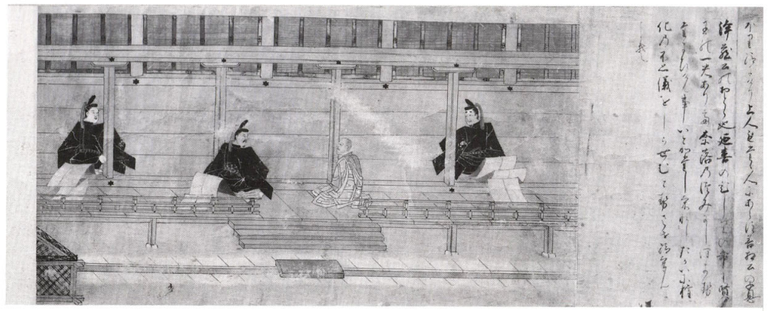
日蔵笙窟修行

詞5　延喜帝落飾崩御　詞4

巻五

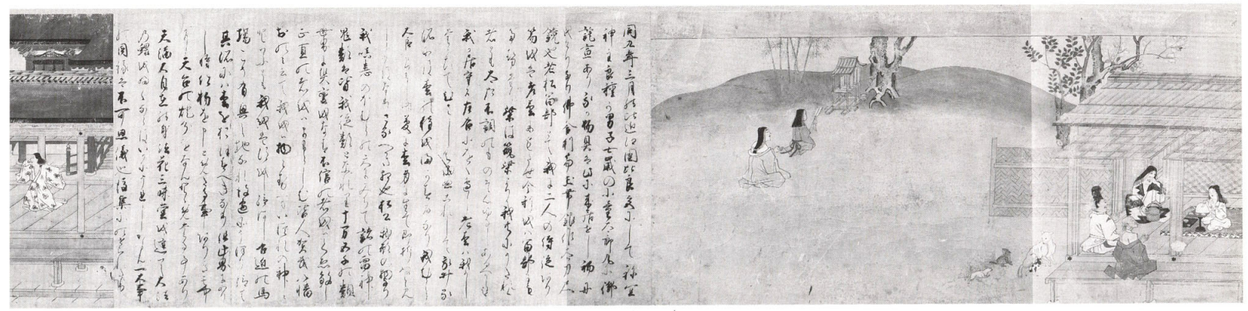


詞1



日蔵奏上

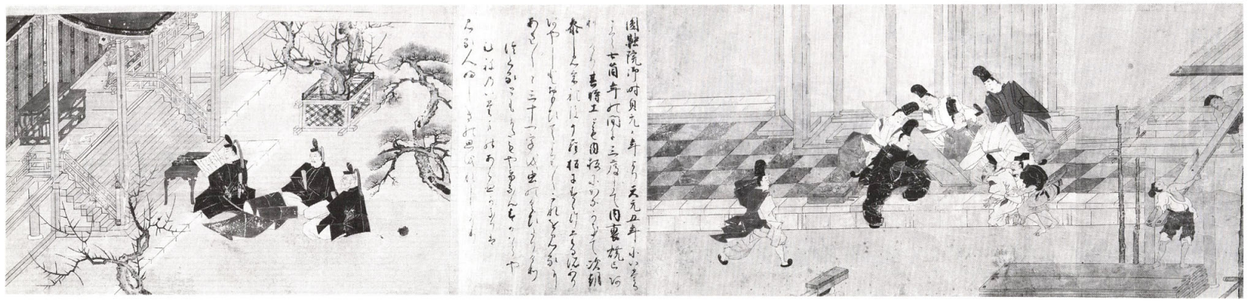
詞6　鉄窟苦所



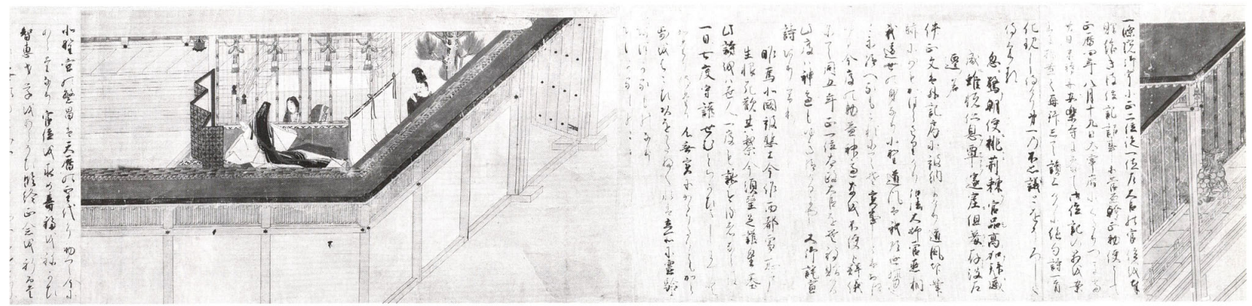
太郎丸託宣　　詞2　　綾子託宣

内裏造営・虫喰和歌

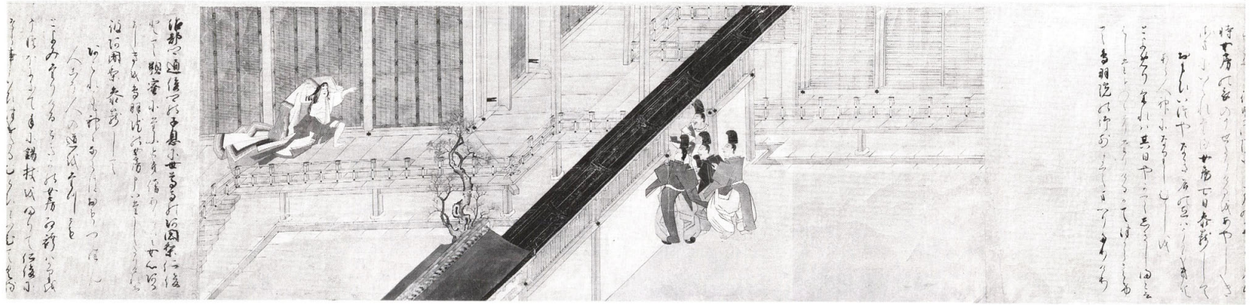
詞3



官位追贈　　詞4

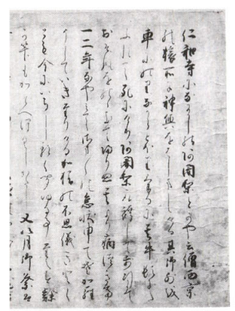


詞6　　待賢門院女房(一)　　詞5

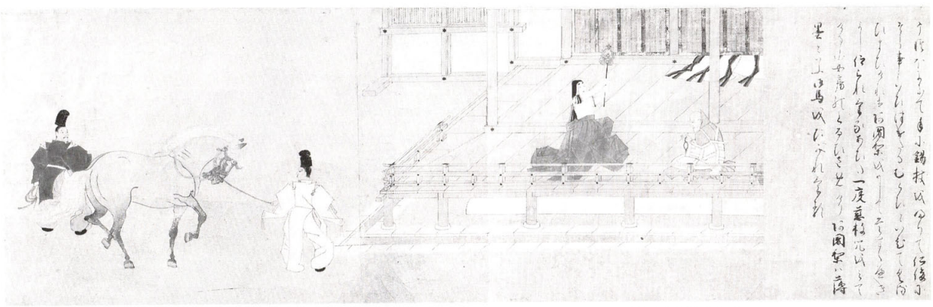


詞7　　待賢門院女房(二)

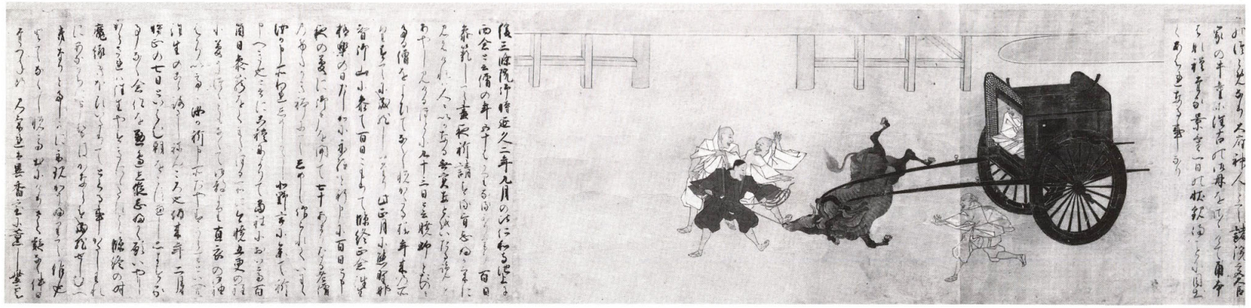
巻六



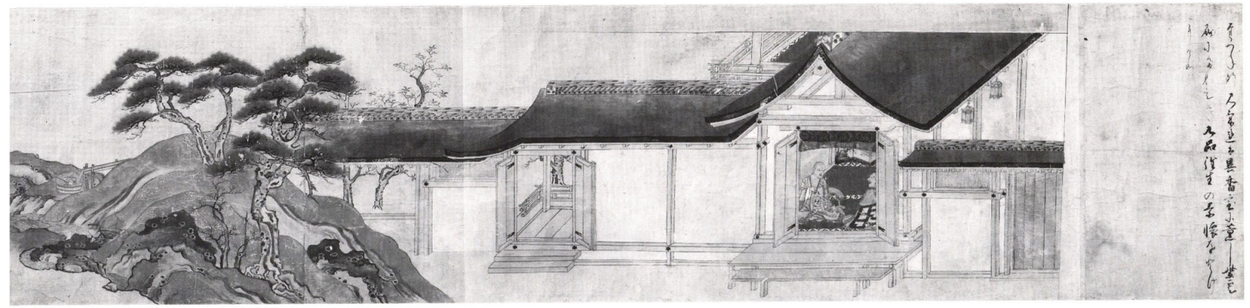
詞1



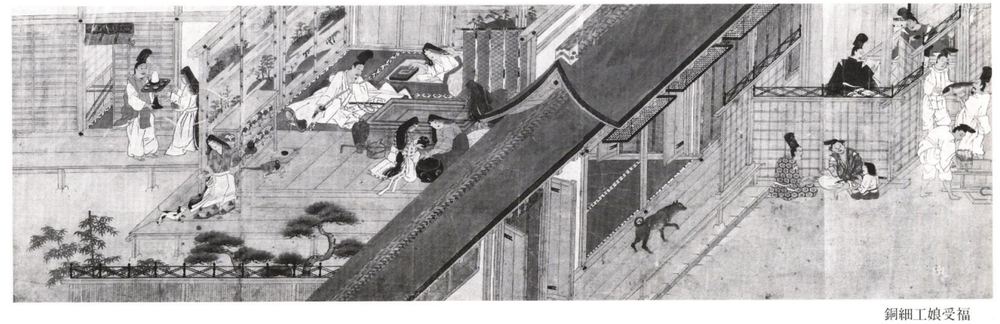
世尊寺阿闍梨仁俊



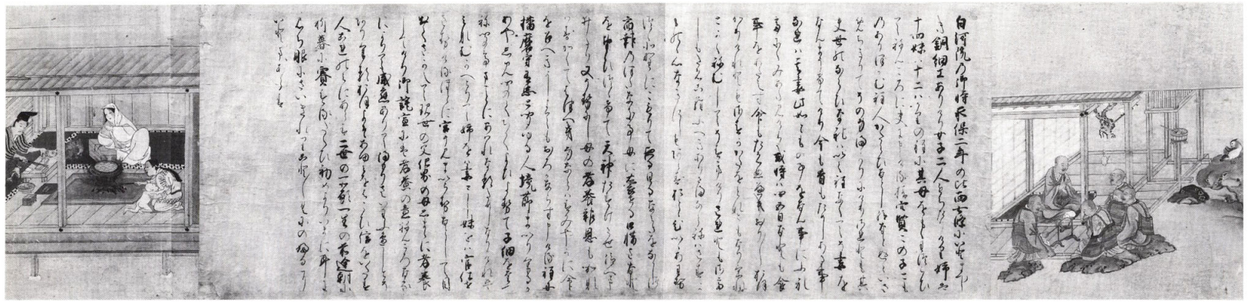
詞2　　仁和寺阿闍梨



仁和寺西念



銅細工娘受福

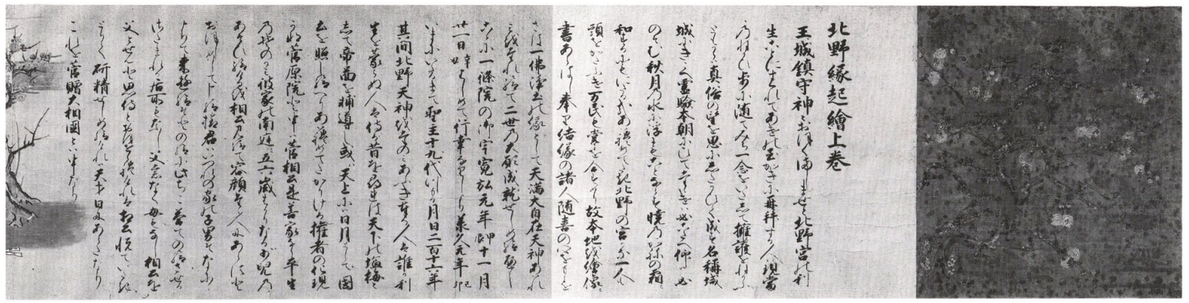


銅細工娘

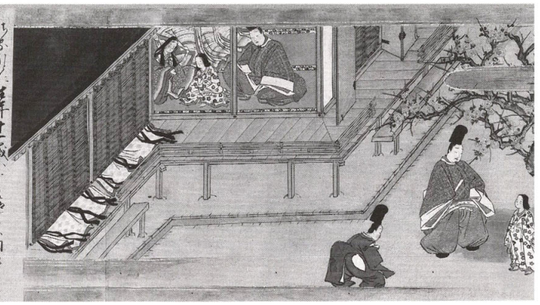
詞3

詞4

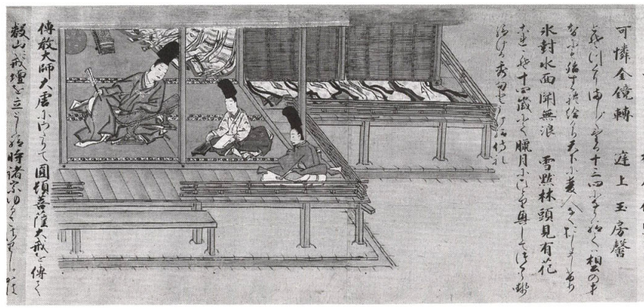
銅細工娘参籠



詞1



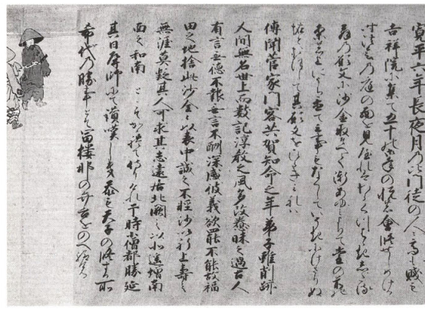
詞2　幼稚化現



詞3　幼時詩作

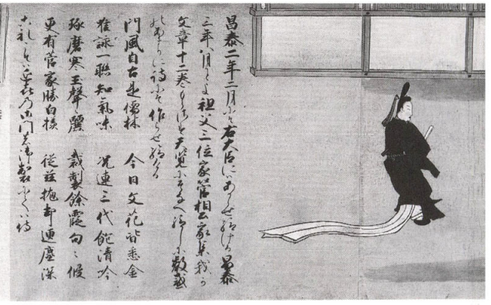
大戒論序

詞4



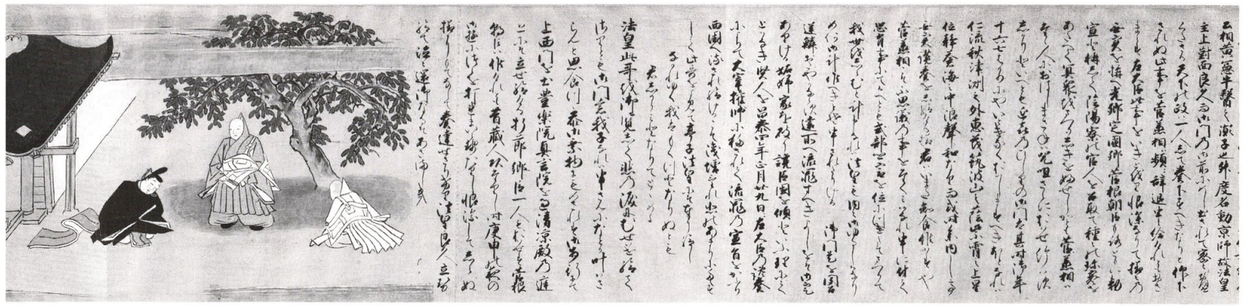
詞5　良香邸弓遊

詞6　吉祥院五十賀

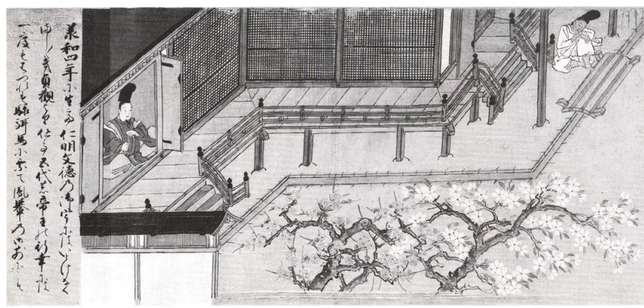


詞7　任大納言大将

詞8　任右大臣



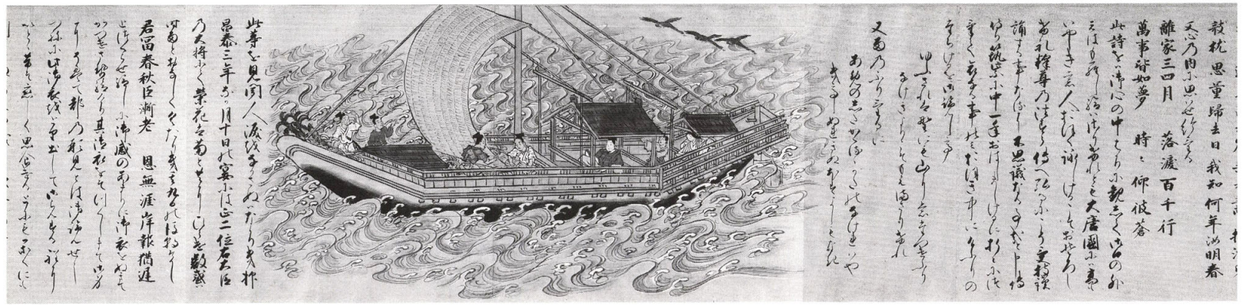
詞9　紅梅殿別離



詞10　椋木法皇

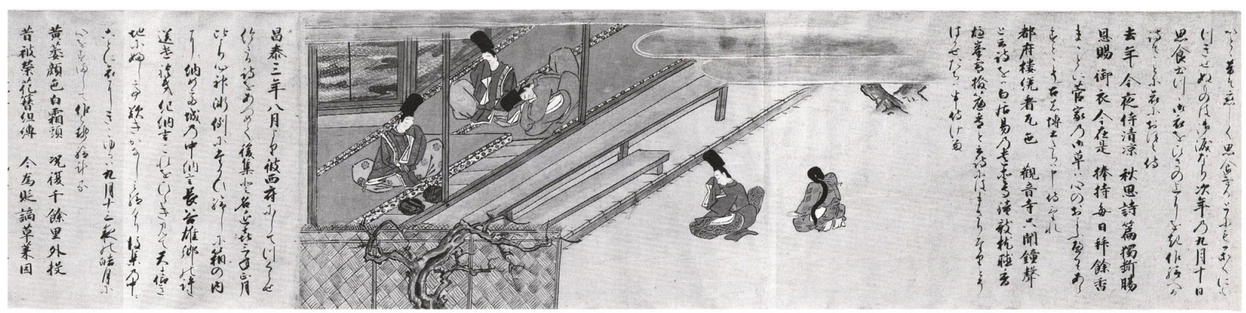
配流途中(陸路)

詞11



配流途中(海路)

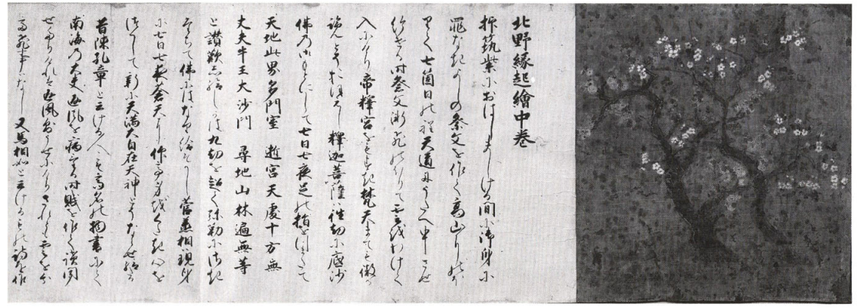
詞12



恩賜御衣

詞13

送後集長谷雄



中巻

詞1

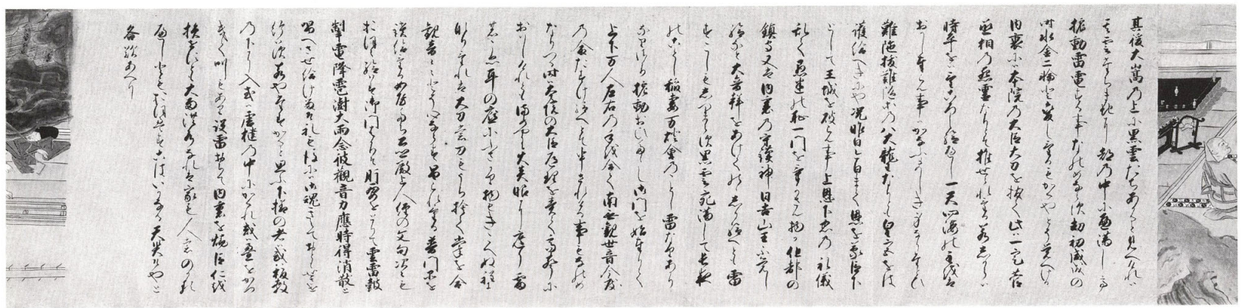
天拝山

詞2

安楽寺墓所

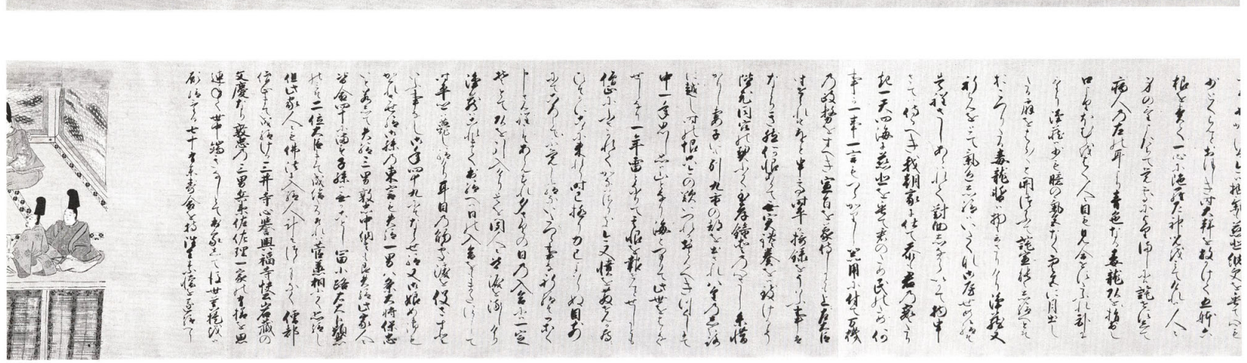
詞3

栢榴天神

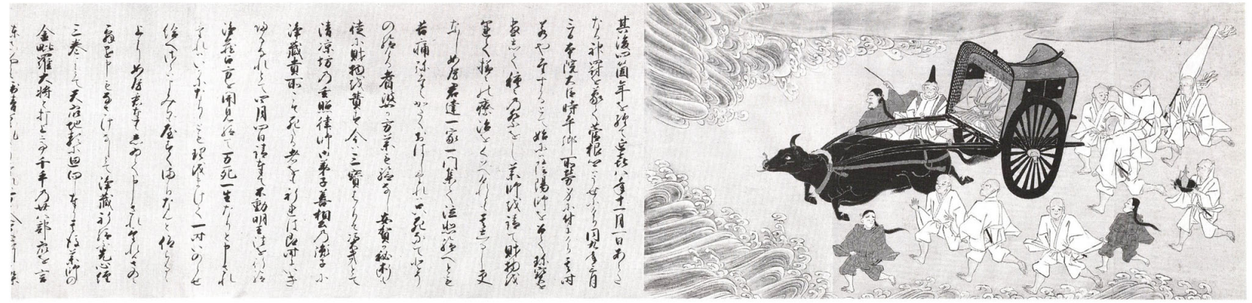


詞4

清涼殿霹靂

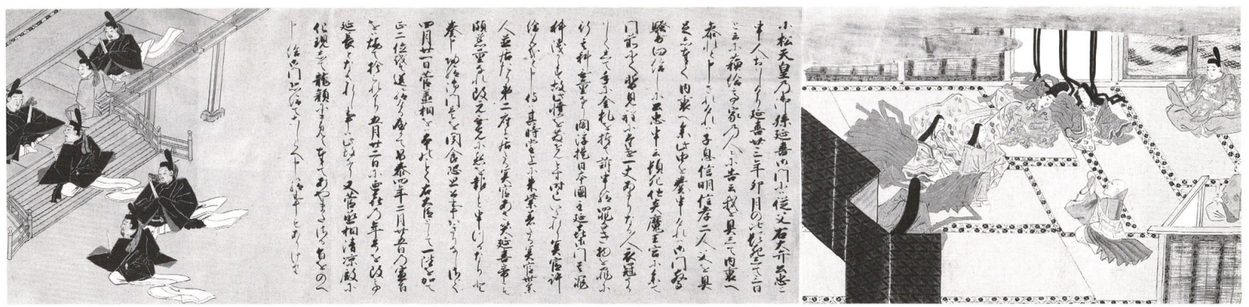


詞5



尊意鴨川渡水

詞6



時平薨去

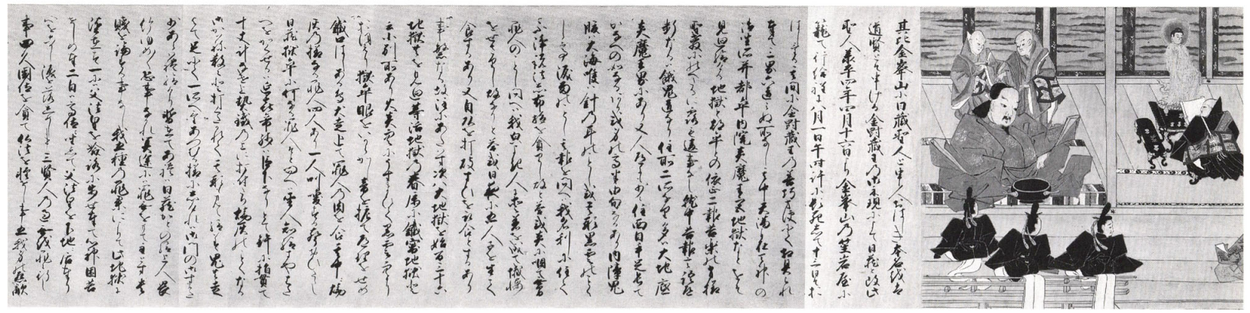
詞7

公忠蘇生奏上

詞8

清涼殿落雷

詞9



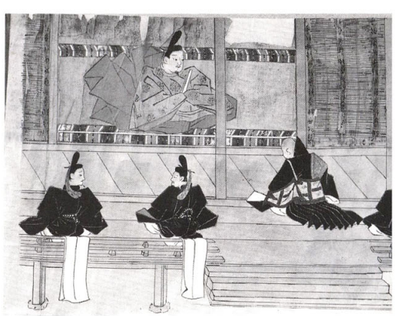
詞10　延喜帝落飾崩御

鉄窟苦所

詞2　綾子託宣

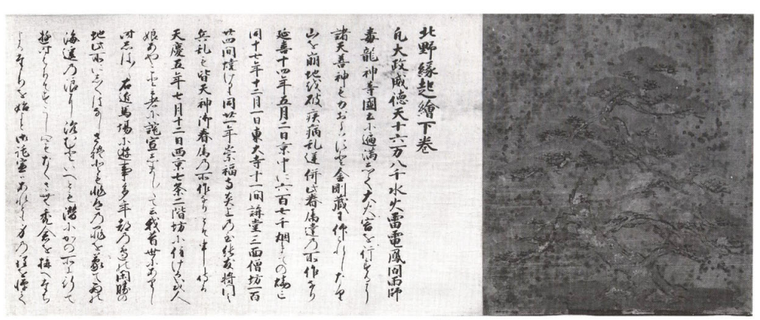
内裏造営・虫喰和歌　詞4　右近馬場相議

日蔵笙窟修行



日蔵奏上

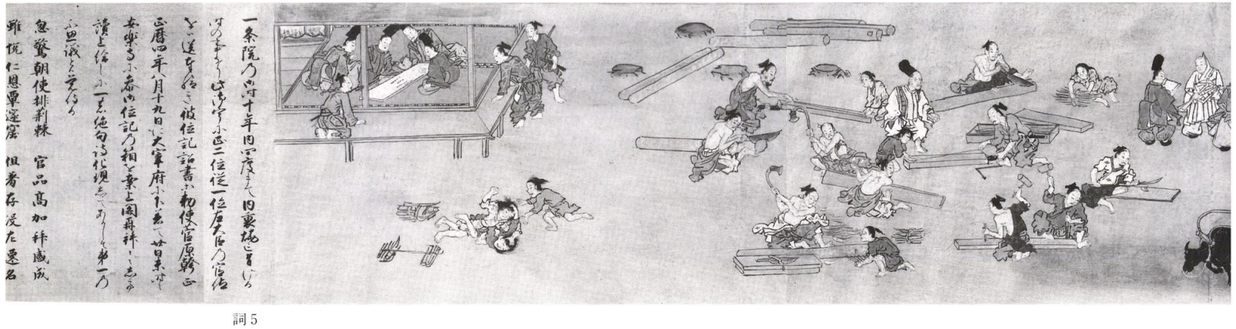
下巻



北野縁起繪下巻

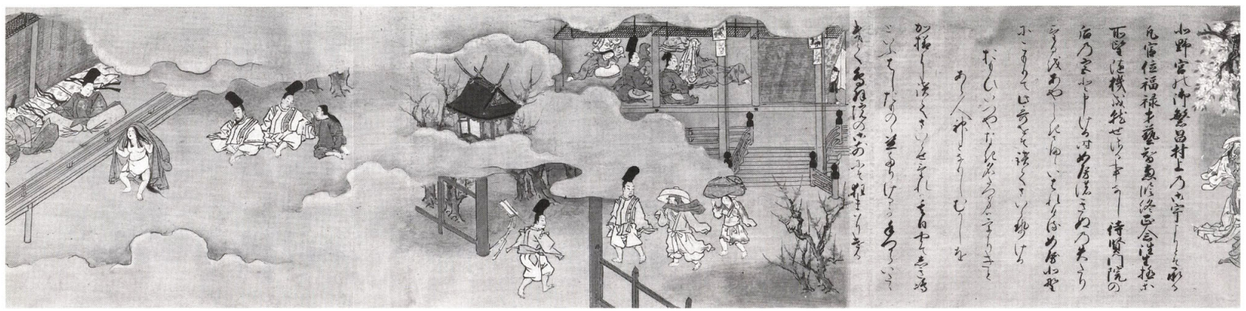
詞1

太郎丸託宣　詞3



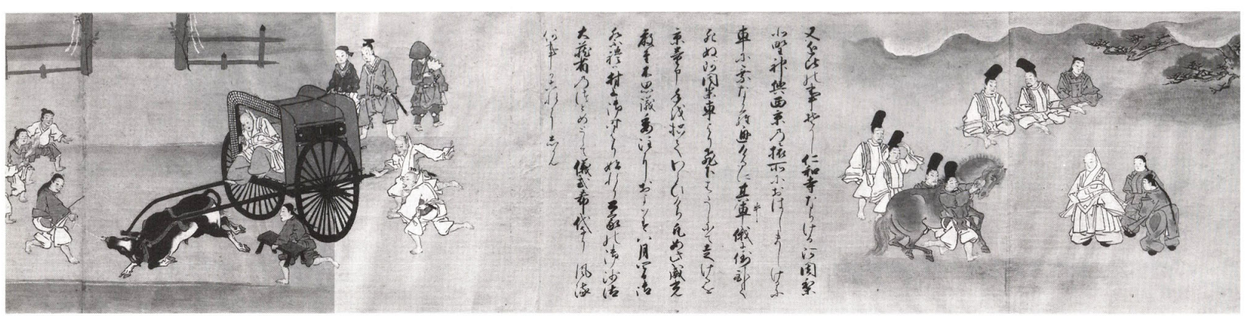
詞5

官位追贈

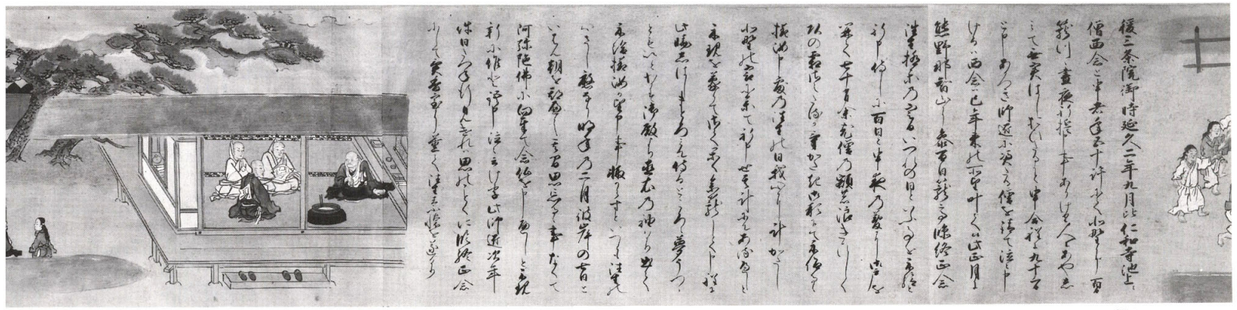


待賢門院女房　　詞 6

世尊寺阿闍梨仁俊　　詞 7

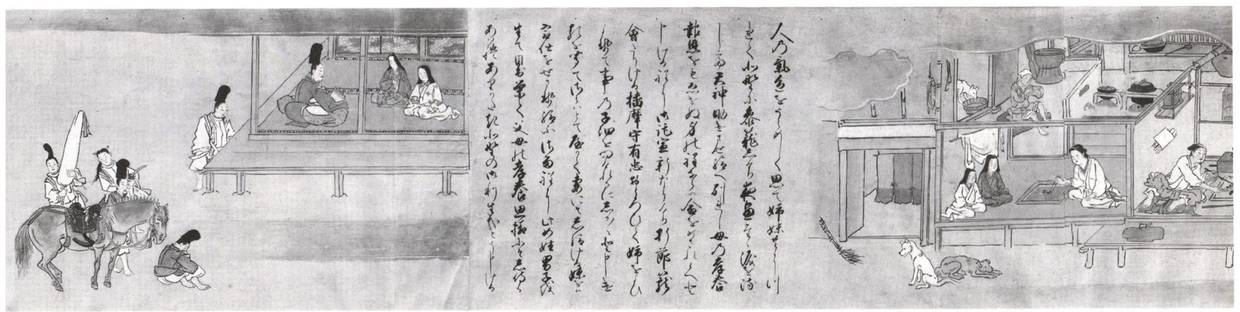


仁和寺阿闍梨　　詞 8

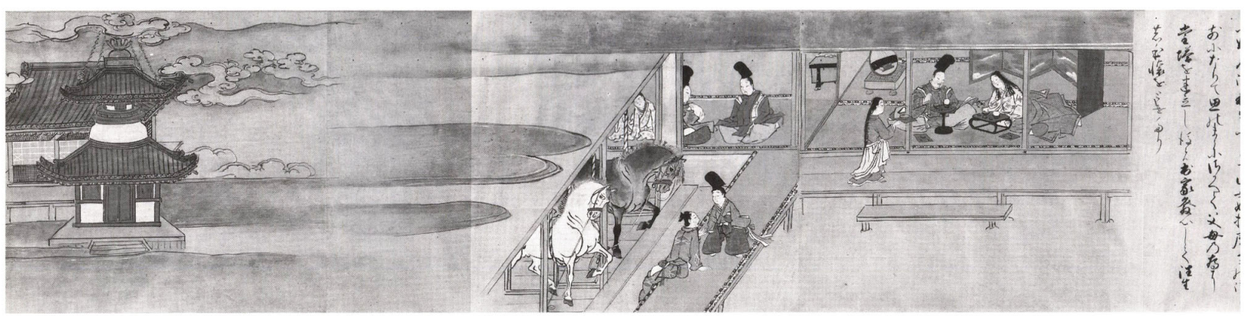


仁和寺西念　　詞 9

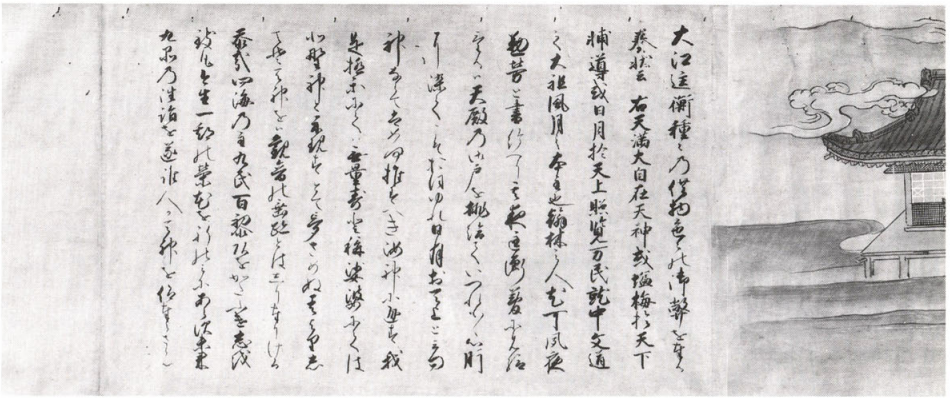
詞10



銅細工娘参籠　　詞11　　銅細工娘



銅細工娘受福　　詞12



詞13

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

絵巻―蒙古襲来絵詞、絵師草紙、北野天神縁起
三の丸尚蔵館展覧会図録No.5

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　大塚巧藝社
デザイン　大石一義
翻訳　鶴岡厚生
発行　宮内庁
平成六年十月八日発行

© 1994, Museum of The Imperial Collections